

第1回緑地審議会 計画・緑化部会  
議事要旨

1. 日時 2024年9月2日(月)午後2時00分～午後4時00分
2. 開催形式 オンライン方式
3. 場所 建設局公園部会議室
4. 出席者 (委員) 赤澤委員 小川委員 白砂委員 新保委員 鳥居委員  
馬場委員 深町委員 松下委員 天川委員  
委員9名中9名出席  
(市関係者) 建設局公園部長 奥野部長  
公園部企画課長 本田課長  
公園部整備課長 伊賀課長  
公園部管理課長 仲島課長  
公園部企画課計画担当課長 坂本課長  
防災課六甲山防災担当課長 大西課長  
事務局他5名

5. 議事要旨

議事1 部会長の選任

- ・赤澤委員の推挙あり。異議または他委員の推挙がなかったため、赤澤委員が部会長に選任。

議事2 緑の基本計画 改定について

白砂先生

- ・温暖化に立ち向かうことが大切に思う。
- ・パリ市では、植樹で気候変動に立ち向かうと掲げている。  
→300ha 緑地を整備、学校の緑化、17万本のうち1/3は本年度中に実施
- ・神戸市は、具体的にどう変わるのかわかっていない。
- ・日本の街路樹は緑陰になっていない。それらが具体的にどうしていくのか、神戸の緑がどうなっていくのかというところが見えると分かりやすくなっていくと思う。

赤澤先生

- ・みんなでやっていかないといけないというメッセージを出す必要がある。
- ・公園と効果と機能 構造化してだれがどう関係するかを示していくと良い。
- ・媒体効果(波及効果)に関する説明が今回はなかった。(不動産価値が上がる、コミュニティが形成されるなど)

天川先生

- ・国際会館の前に六甲山の木を植えられているが、あれは1本で終わりか？  
せっかく広場的な空間なのでもっと植えられないのかと思っている。
- ・山麓線の灘区部分も歩道を広くする工事が行われている。その影響で街路樹が撤去されているが、その後に樹木が植えられるのかは分からない。
- ・街路樹の計画が市民に見えていない。

白砂先生

- ・樹木を高木のままもってくるのはコスト的にも無駄だと思う。
- ・まちの樹木は大きなものを持ってくるのではなく、「育てる」というのが大事。
- ・木を植えることの環境的価値があるという PR をしないと市民からの理解は得られない。
- ・街路樹も住民が植えるという時代にしていくというのもいいんじゃないか。

赤澤先生

- ・「これから大きくしていく」ことの意義をしっかり説明すること。
- ・「知る」「共有する」ということを伝えていくことが大事だと思う。

白砂先生

- ・住民の方にも植えて育ててもらうもの手だと思う。

天川先生

- ・神戸震災復興記念公園創設時では、市民の方にドングリの苗を育てて植えてもらった。  
そこは今14年経ち木々は大きく育っている。
- ・市民が管理を担っている部分もあるが、木々が大きくなると、基本的には役所の管理が必要になる。

赤澤先生

- ・今までも、量を増やすことはたくさんやってきたため、その結果、本数が増えた。
- ・これからは、緑陰を創るために樹冠を増やす。
- ・本数を増やすのではなく効果を最大化していくことが必要となってくる。

新保先生

- ・気候変動をテーマにするのはかなり重要だと思う。
- ・目標が満足度に寄ってしまうのは具体性を欠くので、数値的な指標を出せると良いと思う。
- ・7月にパリに行ってきたが、大きな交差点を森にしたりしていた。真似するのは難しい

かもしれないが、参考にするのは良いと思う。

- ・都市空間向上計画（立地適正化計画）の中で、空き地を緑化・農園利用するということが位置付けているので、そういったところと連携して、緑の関わり方を示せると良いと思う。特に北区西区など、高齢化が進んでいるところを緑豊かな空間にどうやってしていくのか。コミュニティ拠点としてどう緑を使っていくのか。
- ・神戸市は空き地所有者とのマッチングもあるので、そういったものと連携してみると良いと思う。

赤澤先生

- ・住まい方や暮らし方に緑を接続する方がいいというところからだと基本方針の出し方から考えてみたらどうかと思う。
- ・今まででた意見は、今の理念はハード面に寄っている気がするので、そのあたりも更新するほうが良いかなと思う。

馬場先生

- ・神戸の再開発が進んでいて、色んな所にベンチが置いてあったりして、若い人が座っている所をよく見る。
- ・まちの構造や動き方が変わってくる中で、「緑を楽しむ」というところをうまくリンクしていけばいいなと思う。
- ・南海トラフ地震の懸念があるなかで、阪神淡路大震災の時にオープンスペースが多く利用された。公園の防災機能は大切。地域防災計画にも位置付けられており、引き続き他部局との連携して計画して計画を。

赤澤先生

- ・地域防災計画など大きな計画だけでなく、具体的にどういったことをしていくか考えてもいいのかと思う。
- ・小規模公園なども自治会・地域レベルでどうしていくかということも出てきているので同関連していくか考えていくことが必要。

深町先生

- ・どういうところで何をしてきたのか。空間上での実施状況が分かると思った。それをみて地域全体でどうしていくのかがわかるようにすればいいと思う。
- ・神戸は長い歴史・文化があるなかで、神戸市らしい緑がどういう状況にあって、日常ですぐ近くにある里山や神社などをどう活かしていけばいいのかという視点があると良い。
- ・管理の問題が大きな課題になるので、単純な管理だけでなく資源で使うなど、地域の楽しみなど緑をうまく使うことについて言及できると良いと思う。

- ・緑の基本計画そのものを知らない、見てもよくわからないという人が多く、根本的な書き方や構成や伝え方についても、もう少し工夫が必要がある。

赤澤先生

- ・神戸市は開発が多く、市民の方が全体的に理解できるようなものを資料編でもいいので作ってもらえると良いと思う。

松下先生

- ・市民参画で緑を増やすのは大事だと思う。市民活動で活動しているリーダー的な人が多い。専門的な知識も持っているので、行政がおぜん立てをして枠の中でやるのではなく、もっと自由にやってもらえるような幅広なことが考えていければよいと思う。

赤澤先生

- ・新しい人の活躍が目に見えれば、自分たちのまちに愛着が沸く。

白砂先生

- ・緑の範囲は、行政が実施するところだけでなく、社寺なども緑として評価するのが大事だと思う。
- ・人口減少の中でこれから開発をしていくのか。SDGsの持続的な「開発」ではなく「展開」。
- ・街路樹を切るという前提としていくからお金がかかる。樹木は自然に大きくなるので、必要のところだけを切るという風にすればいいのでは思う。

赤澤先生

- ・いろんな方が緑をどうつかい守っていくのかの観点を最初に書けばいいのではと思った。
- ・管理についてはどう適正化していくのかという視点で考えていく。

鳥居先生

- ・神戸市の舗装はインターロッキングが多く、街路樹によって不陸が発生することが多い。
- ・神戸市では、植えるときに気をつけていることがあるのか。

赤澤先生

- ・大木化だけでなく健全に育てばいい。
- ・きちんとポリシーを定めて歩きやすいまちなどウォークアブルを含めるともいいと思う。

小川先生

- ・北区や西区の里山エリアやもともと自然環境があるところは、それなりに自然環境が維持

されてきたと思うが、今後は人口減少社会で中心市街地よりは里山を構成している所の方が先に人口が減る。そのあたりの緑の環境が先に損なわれていく可能性がある。

- ・神戸市全体の緑の基本計画の上では、中心市街地の緑の充実だけでなく、六甲山の北側や西区の里山や自然が豊富にある地域への対応についても明示していく必要がある。
- ・今まで当たり前が存在していた緑が当たり前に残っていく時代ではなくなっている。
- ・他の計画も同時に改定していく件。特に、都市計画マスタープラン（以下「都市マス」と表記）は大きな影響があると思う。
- ・都市マスの中でどう位置付けてもらうのか。緑の基本計画と矛盾がないかに注意が必要である。
- ・現行の都市マスの「風の道による環境形成帯をつくる」という記述を残したうえで、環境形成帯の緑の地域をどう作っていくのかという点が必要になってくる。

鳥居先生

- ・斜面防災から、人工林の手入れ不足は問題となっているがそれを入れられないか。
- ・里山等「地域ごと」の計画が大事かと思う。

馬場先生

- ・グリーンインフラをどうしていくのかということが大切になってくる。いつかは取り組まないといけないと思っている。

赤澤先生

- ・スケジュールについて、議論の回数をもう少し増やしていくほうが良いと思う。